

情報公開文書

研究の名称	緑内障未治療患者に対する点眼治療効果解析
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院 眼科 教授 林 篤志
研究の概要	<p>【研究対象者】 富山大学附属病院および雄山アイクリニックにおいて、これまで緑内障未治療の患者に対し点眼治療を開始して、3か月間の経過観察が可能であった患者さん</p> <p>【研究の目的・意義】 緑内障の治療は、眼圧を下げる治療であり、眼圧を下げるための点眼治療から始める場合が多い眼圧下降効果の高いプロスタグランジン (PG) 点眼 (FP 受容体作動薬) から開始することが、緑内障ガイドラインでも推奨されています。しかし、PG 点眼は、結膜充血、眼周囲の色素沈着、睫毛伸長、眼瞼陥凹なども多いため、眼圧下降効果は PG と比較し、やや劣るが、ベータブロッカー点眼を行うこともあります。</p> <p>2018年11月にオミネデパグイソプロピル (OMDI) が日本でも発売され、PG と眼圧下降効果も非劣勢でありながら、眼周囲の色素沈着、睫毛伸長、眼瞼陥凹などの合併症がないことで注目を浴びています。OMDI の点眼効果に関する論文はいくつかあるが、多くの研究では緑内障の治療をすでに行っている患者さんが対象です。(Am J Ophthalmol. 2020 Aihara M et al.) (J Ocul Pharmacol Ther. 2022 Inoue K et al.) これらの研究結果からは、緑内障第一選択役になりうると報告されています。</p> <p>本研究では緑内障未治療の患者さんで、新たに点眼治療が必要と判断された患者さんに対しての、点眼効果を解析することを目的といたします。</p> <p>【研究の方法】 2020年1月から研究承認日までに緑内障と初めて診断された患者さんの、未治療での状態での眼圧を2回測定いたします。その後点眼治療を開始し、約1か月後、3か月後に眼圧を測定し、点眼による眼圧下降効果と副作用を確認します。点眼治療開始前と開始後1か月、3か月の眼圧と、眼圧下降率を求めます。</p> <p>【対象者の診療期間】 2020年1月から研究承認日までに、緑内障未治療の患者に対し点眼治療を開始して、3か月間の経過観察が終了した症例</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2025年12月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会発表、論文掲載を予定しています。</p>

<p>研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)</p>	<p>主要評価項目：点眼治療後の眼圧下降率 副次的評価項目：点眼治療による副作用、効果不十分の割合 雄山アイクリニックを共同研究機関としてデータ統計解析をするため情報提供いたします。また、患者データは個人識別が可能な情報を削除し、匿名化します。</p>
<p>研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名</p>	<p>富山大学附属病院 病院長 林 篤志</p>
<p>研究資料の開示</p>	<p>研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。</p>
<p>試料・情報の管理責任者(研究主機関における研究責任者氏名)</p>	<p>富山大学附属病院 眼科教授 林 篤志</p>
<p>研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口</p>	<p>研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 眼科医局 076-434-7363 E-mail otsuka@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 眼科助教 大塚 光哉</p>